



恵明新聞

No.113

令和4年6月8日発行

2022.6



今年の三月、静岡恵明学園の園生が静岡にある四年制大学を卒業しました。奨学金を受け、電車通い、アルバイトをして学校の先生になる志を貫きました。そして静岡市の私立高等学校へ見事に就職しました。たくさんの皆様からご厚志を頂き、学園職員の皆に支えられました。本当に感謝の念を感じずにはいられません。ありがとうございます。静岡市へ引越しをする前の晩、彼は出発の挨拶にきました。高校時代に教えを受けた恩師の名前を挙げて自分の将来を決めるのに精神的な支援をしていただいたこと、その恩師のような教師になりたいことを熱く語っていました。そこにはフレッシュでやる気が溢れた若き教師の顔をした頼もしい若者がいました。

今年には高校を卒業した園生が五名います。塗装会社へ就職をした子、調理師をスポーツインストラクターを目指し専門学校へ進んだ子達、社会福祉を作業療法を学ぶため四年制大学へ進学した子達です。学園からおのおの進む場所へ巣立って行きました。先に登場した先輩のように初心を貫き、個々の目標を貫徹してくれることを希望します。

世界はウクライナ情勢を背景に不確実性を高め、平和の在り方と日常の何気ない大切さを私たちに告げています。これから新しい人生航路へごぎだす子ども達、そして学園から卒園生を応援する在園生にとって平穏な毎日が過ごせるよう強く祈っています。

社会福祉法人 静岡恵明学園

理事長 杉村 伸一



山の家 だより

静岡恵明学園児童部

ボクとワタシと お姉さん



「お姉さんの身長、もう少しで超しちゃうよ、私。」
 といつも違う綺麗な服に身を包み、緊張した表情で私の隣に立ったSさんがふと、少し笑いながら言った。その日は、私が初めて会った時、四年生だったSさんが、小学校を卒業する日だった。それまであまり気にしていなかったが、私は確かに目線が合う高さが今までと違うことを実感した。

その瞬間、これまでSさんの担当として共に過ごしてきた三年間が、私の脳裏に気よみがえってくる。

出会った頃、「新任職員と子ども」という関係で、お互いどこか様子を伺うような雰囲気があり、Sさんは、思っている事の半分も伝えられていないのではないかと未熟ながらも心配していた。しかし、一緒に生活をしていく中で、お互いを理解し、Sさんの方からも歩み寄ってくれたおかげで今では、普段の何気

ない会話の中でも、「お姉さん/Sちゃん、今こう思ったでしょ。」とお互いに言いたい事が分かる時もしばしばある。それは、三年間の年月を経てSさんとの心の距離が、初めの頃より、近くなっているからだと思える。四年目に突入した今年、他の子どもたちにも同様に言えることだが、中学生になった彼女の成長を近くで見られる事が、私にとつてどれ程、幸せな事か。

日々成長し新しい一面を見せてくれる子ども達の姿を、これからも職員として、一人の大人として傍で見守っていきたい。

長澤 璃琉(保育士)

最近子どもたちと一緒に「ゴールデンカムイ」というアニメを見ています。明治末期の北海道・樺太を舞台にした、金塊をめぐるサバイバルバトル漫画です。そのアニメの中に印象的なシーンがあります。主人公(以下杉元)が狩りをする場面です。手負いさせた鹿が必死に杉元に向かってくるシーンです。日露戦争を経験した杉元は、戦場で傷を負いながらも生き延びようとする自分の姿と鹿の姿を重ね合わせてしまい、どうしても銃の引き金を引くことができません。杉元は代わって鹿を仕留めたアイヌのヒロイン(以下アシリパ)は狼狽する杉元に向かって、解体している鹿の腹の中に手を入れてみると言います。そしてこんな台詞を残します。

「鹿は死んで杉元を暖めた。鹿の体温がお前に移ってお前を生かす。私達や動物たちが肉を食べ、残りは木や草や大地の生命に置き換わる。鹿が生きた価値は消えたりしない。」

アイヌは動物を使えるところは全て使う意識で狩猟



「人間は他者の命によって生かされている。それを常に意識し、自分を生かしているものに感謝して生きなければならぬ」ということをアシリパは杉元に伝えていきます。

さて、そんなアニメの影響を受け、子どもたちは食事しながら「ヒナチンナ(食べ物に対して感謝の意)」と口にしていきます。普段からご飯を残すことはありませんが、ゴールデンカムイというアニメは子どもたちに何か大切なものを教えてくれたのかも知れません。

溝口翔平(児童指導員)

はなみずき の家 だより

地域小規模児童養護施設

始まり

Let's Start!
 「始まり」はいつも不安がつきもの。期待と不安が入り乱れる。

この春、進学・進級に加えて、新たなメンバーで再スタートを切ることもあった。小学校高学年となり委員会活動の役割を担うことになる。「どんなことをするのか」と期待を膨らませる。

「ヨーグルト美味しかった」と帰宅後上機嫌で伝え、「明日のおやつは何だろう?」と入園したばかりのことも園生活に胸をときめかせる。新たな事への挑戦に希望を持ち、心を弾ませる。

その一方で、「本当にやっていると不安になるのか」と不安になる。新しい環境に適応できずいたり、適応しよ



うと頑張りすぎてしまう時もある。

そんな時、大切にしたいことは、この家や私たち職員が子どもたちの「心の安全基地」となること。どんなに嬉しくても、どんなに辛くても安心して帰って来られる。こどもと喜怒哀楽を共有し一番の理解者となり味方でありたい。

今後未知な世界へと飛び込んでいくこどもたち。これから育ちゆく小さな芽に寄り添い、春のような暖かい心で愛情をたっぷり注いでいきたい。何年後、何十年後に大きな花を咲かせることを願って。

大塚 麻央(保育士)



自分でできること 児童家庭支援センタースマイルだより

「おかしやあーん」と呼べるようになった娘は、もうすぐ二才。産休前は乳児院で働かせていただき、現在は縁あって児童家庭支援センターで働く事になり、もうすぐ二年が経とうとしています。初めての妊娠出産はコロナ禍で制限が多々あり不安との戦いでした。母になり我が子の育児の楽しさや苦労が身に染みてわかり、自分は何不自由なく恵まれて育ってきたことに感謝しました。

サポートなしでは出来ません。人と人との繋がりが薄くなってきた今、子どもたちの悲しいニュースを連日耳にします。少しでも多くの方々に児童家庭支援センターの存在を知ってほしい。他機関と連携し、ひとりでも多くの子どもたちが幸せに安心して笑って暮らせる世の中になつてほしい。継続支援や新規の方々との交流を大切に、これからも自分ができることを精一杯発揮して業務に励んでいきたいと思えます。

鈴木 佳奈子
 (相談支援員)



研修を通して

里親支援事業に携わり、私は主に里親さんを対象とした研修を企画しています。その中で毎年欠かさない研修している「赤ちゃんの養育体験」の研修では、当法人乳児院職員に手ほどきを受けながら、赤ちゃん人形を使って沐浴・おむつ替え・授乳の体験をして頂きます。

様々な大きさの赤ちゃん人形を抱くところから研修は始まります。初体

自立支援という事

彼等(社会的養護自立支援事業対象となる十八歳〜二十二歳までの人たち)の為に何をしていくのか、何をなすべきなのか。と常に自分の心になげかけています。

福室 あゆみ
 (里親サポーター)

私も自身は、自立支援事業の相談員であるのですが、自分の発する言葉や態度が、彼等の気持ちに対して傲慢不遜になっていないだろうか、きちんと彼等が自らの将来展望に希望の持てるよう心を決めて話をしているだろうか、常に自分の心になげかけています。

社会的な法律・制度等の取決めと、彼等を取り巻く方々の善意や協力のおかげで彼等の「自立」に向かう一助として、様々な

事柄と気持ちを繋げていくことだと考えています。彼等が新しい社会生活を意気揚々と楽しく考えてスタートしていきます。生活が始まれば、良い事、嫌な事、面倒な事もあります。それらの事が、彼等自身を成長させる様々な経験と認識して、自分で生活をこなせるようになってほしい、と私たち自立支援相談員は祈るように願うばかりです。

今年の四月から、法律の改正が施行されて、これからは十八歳から様々な場面(社会の中)、責任と義務を果たすことが求められていきます。

私たち自立支援相談員が彼等と話をしていくにもこれまで以上に、「自立した生活の中身」に気を付けて、しっかりと考えて相談していかなければならぬと痛感しています。

より一層、厳しい現実に向かって、思いやりの心とぬくもりのある言葉で支援を続けます。

高津 直信
 (自立支援相談員)



七夕祭り

毎年子どもたちが楽しみにしております「恵明七夕祭り」を今年は今和4年7月3日(日)に予定しておりますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から開催を中止させていただく場合がございます。開催の判断につきましては今後静岡恵明学園ホームページにて発表いたします。何卒ご理解のほどよろしくお願い致します。

静岡恵明学園ホームページ(お知らせ)
<http://www.s-keimei.or.jp/g-osirase.htm>

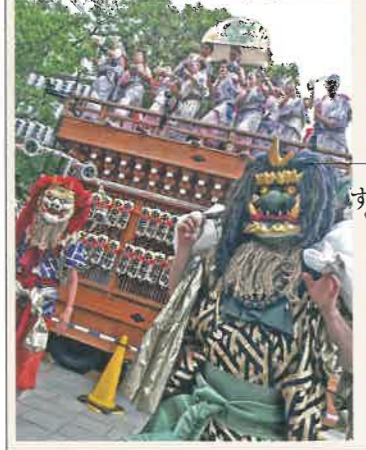
ボランティア File NO.4

いつもありがとうございます

中央町 三島雛子保存会さん

「夏の催しとして「恵明七夕まつり」(七月、第二日曜)が例年行われています。今年もコロナ禍で開催を検討していますが、この七夕まつりで永年協力してくださっているのが「中央町三島雛子保存会」の皆さまです。現在の学園の設計に携わった故河邊和年さん(平成二十五年六月逝去)が学園の役員をされていて、その河邊さんが所属されていた中央町三島雛子保存会が七夕まつりで演奏披露

露してくださることになり、今でも活動が受け継がれています。三島雛子の鉦・太鼓・篠笛の音色は三島の夏の風物詩であり、学園のお祭りの雰囲気盛り上げ彩つてくれます。そのような縁の中、中央町で開催される八坂神社祭典に学園の子どもたちを招待してください。地域の方々と子どもたちが協力して楽しい時間を保持していただければ幸いです。永年に渡り学園行事に協力していただき、そして子どもたちの思い出作りにご配慮いただき本当にありがとうございます。



赤ちゃん センター



乳児部

乳児部での生活

乳児部に勤務して、三ヶ月が経とうとしています。毎日覚えることがたくさんで、大忙しです。その中でも、子どもたちと生活をし、様々な経験をしました。

まず、大きい子さんのRちゃんとの関わりです。Rちゃんは、私の名前を覚えてきたと喜んでくれるようになりました。朝お部屋に入った時、着替えをして

いる時、お部屋の中から電車が来た時、お友だちが何かをしてた時、様々な場面で「かれんちゃん」と呼んで教えてくれます。私に受け入れてくれると感じうれしくな

ります。

そして、食事の援助に悪戦苦闘しています。初めはどれだけ大変なかわかっていませんでした。その子によって、食べ方、好きな物、苦手な物は様々です。全ての子について好みを理解していかないと対応できません。子どもたちは、苦

手な食べ物があると、口を開かず食べようとします。しかし、お姉さん達の工夫した声掛けに応じた

り、ご飯のあとのフルーツやお菓子のために、と最後まで頑張つて食べてくれる子たちがいっぱいいます。今は食事の援助に自信がありませんが、先輩方のアドバイスを参考に、工夫をしていきたいと思っています。



お風呂上がりの出来事

乳児部に就職させていただいてから約三ヶ月が経とうとしています。少しずつ私の緊張もほぐれてきました。



中でも緊張していたことはお風呂の時間です。お風呂上がりの子どもたちを脱衣所でタオルを持って待ち、お風呂から上がった子どもの身体を拭いて大きい子さんのお部屋まで連れて行きます。いつも遊んでくれるAちゃんもお風呂上がりの時は「〇ちゃん



泣くのです。よく知らない人に体を触られるのは嫌なんだとわかっていても心が痛くなりました。しかし、ある日のお風呂上がりにお迎えに行くと、Aちゃんがニコニコしながら出てきてタオルを広げて待つ私に飛び込んでくれました。

「Aちゃんお風呂入ったの！あつたかかった」とお話ししてくれました。頭や顔を拭くことも私にさせてくれ、「少し慣れてくれたのか？」と思つてとても嬉しかったです。

お姉さん方のように子どもの成長が発見できる日々を大切に過ごしていきたいと思っています。

成長を共に

どんな子どもたちがいるのかな？期待と不安が入り混じり、ドキドキした気持ちで始まった初めての出勤の日から、あつという間に三ヶ月が経ちました。優しくたくさんのごとを教えてください。先輩のお姉さん方、悩みを相談できる同期、そして一緒に過ごしている子どもたちを支えられて毎日を過ごしています。まだ三ヶ月しか経っていませんが、子どもたちはたくさんの姿を見せてくれます。手と足に



力を入れてゆらゆらしながら一生懸命前に進もうとする姿、迫力のある声を出しながら遊ぶ姿、片付けをしていてと這つてやってくる箱の中におもちゃを片付ける姿、桜が舞う様子をみて楽しそうに「ピラピラ」と言う姿、「自分で」と言つてズボンや靴下を履く姿、年下の赤ちゃんに優しく「〇ちゃん」と言つて遊ぶ姿。毎日六人の子どもの様々な姿に癒されながら元気をもらっています。



ある朝、いつも通り「おはようございます」と挨拶をする時、昨日まで「お姉ちゃん」と言っていたKちゃんとR君が、「めいちゃん」と名前を呼んでくれました。子どもたちとの距離が少し縮まったように感じ、嬉しかったです。

子どもたちは、昨日より今日、今日より明日へと少しずつ成長し、心も身体も大きくなっています。私も子どもたちと一緒に、たくさんを見て触れ、感じながら、同じ時間を共に楽しんでいきたいです。そして、先輩のお姉さん方や子どもたちの「ありがとう」の気持ちを忘れずに、一緒に成長していけたらと思っています。

渡邊 愛衣(保育士)

明 恵 保 育 園

日々の成長

新年度が始まり数ヶ月が経ち、登園時最初は泣いてしまっていた子どもも安心した顔で登園して来てくれるようになったと思います。

私は今年度三回目の大きい子組さんのクラスでお仕事をしています。小さい子組さんから進級した子、新入園児さん合わせて十九人の子どもたち。慣れないお部屋での生活、最初は心配そう

いた子どももお姉さんやお友だちと大好きな事を見つけて、夢中で遊んでいる中で、少しずつ緊張がほぐれて可愛らしい笑顔を見せてくれる子どもたち。その笑顔を見る私も自然と



笑顔になりとても幸せな気持ちになります。

それと同時に子どもたちの「日々の成長」に驚かされる毎日です。子どもたちは今まで出来なかつた事も「自分でやる」「ねえ見て自分で出来たよ。」とがんばっています。最後まで出来ない子でも自分で挑戦している姿を見ると子どもの力つてすごいなと改めて感じます。

一年の始まりがとても不安に思っていた私の気持ち、子どもたちの力によって自然に笑顔に変わっていました。笑顔という素敵な力を持つ子どもたちと保育士として日々成長していける事の幸せを感じ、私は保育士という仕事に就いたことを本当に良かったと思う毎日です。

今年もこれから色々な

笑顔になるとき

出来事があると思います。が、悲しい事があれば共感して悲しみ、楽しい事があれば一緒に笑い合つて日々を大切に、みんなで元気いっばい過ごしていきたいと思っています。

齋藤 愛羅(保育士)

コロナ禍三年目、新型コロナウイルスの報道を見ない日はありません。そんな中でも保育園では子どもたちが毎日笑つて泣いていても賑やかに過ごしています。今年度も、新しく子どもたちが入園してきました。大好きなパパ、ママから離れて力一杯泣いている子、ぐつと堪えている子、みんな小さな体で一生懸命に頑張つて過ごしています。在



園児も進級してまたつお兄さん、お姉さんになりどこか誇らし気なお顔。

新生活にドキドキワクワクな子どもたちも園庭では更にパワーアップ！元気に遊びます。転んで膝を擦りむいたり、お友だちとぶつかつておでこが腫れてしまったりと、時に思わぬケガをします。ケガの具合を見て処置をすることがあります。ケガの痛みに加え、これからの不安な処置をするのかな？痛いなとをされるのかな？と不安顔になってしまつたりも。そんな時はお膝に抱っこしてゆつくり声をかけ、小さな子ども、これからすることを説明してから処置をはじめようとしています。また、処置の間も声を掛けながら行います。すると、処置の様子をじーっと見つめ、動かないで協力してくれま

す。終わる頃にははにかりかわいい笑顔が戻つて、「なおつたよ！」と、また元気に遊びに行きます。子どもが笑顔になるその瞬間

令和三年四月、私は待望の第二子を出産しました。そして一年の育休が終わり今年三月より職場に復帰しました。

沢山の娘息子達

成田 佳奈(看護師)

間はずいぶん心が温かくなり、私の原動力になりました。そんな子どもたちとの時間を大切に、これからも子どもたちの元気な笑顔のお手伝いをしていきたいです。

私は今年度三回目の大きい子組さんのクラスでお仕事をしています。小さい子組さんから進級した子、新入園児さん合わせて十九人の子どもたち。慣れないお部屋での生活、最初は心配そう

今、娘も一歳となり、自分なりに子育ての肩の抜き方も分り穏やかに過ごさせています。乳児部赤ちゃんとセンターには、今、七ヶ月の女の子がおり、娘の成長と重ねて嬉しくなっています。また、絶賛イヤイヤ期のR君を見ると、「そうだね、イヤだよね」とこの先娘に訪れるであろう時期に身が締まる思いです。

児童部の今年四月の新一



女関のチューリップや菜の花などの色鮮やかなお花がきれいに咲き、今年度も賑やかにスタートしました。私は今年度、ふよう組を担当させて頂くことになりました。進級するにあたり、年長さんとして小さいお友達をリードできるかな？という私の心配をよそに、ふよう組さんになったみんなは、新しく2階での生活に仲間入りしたすみれ組さんのお手伝いを進んでしてくれ「お支度するよ」「制服はここに掛けるよ」と優しく教えてあげ、頼もしい姿を見せてくれています。すみれ組さんは、まだ少し大きい制服や体操着に身を包み、身支度など「もう自分でできるよ、すみれさんだもん」と毎日張り切っています。ゆり組さんは新しく始まったドレミランドや体操教室などのレッスンにわくわくしながら参加しています。ふよう組さんは、憧れていた富士山係や竹



馬の練習も始まり、年長組になった実感も沸き毎日楽しく過ごして、昨年から頑張っている縄跳びや逆上がりも引き続き一生懸命目標に向かって取り組んでいます。先日みんなでことわざカルタで遊んだ際に、継続は力なりという言葉が出てきました。意味を伝えるとき「できないことがあっても毎日練習すればできるようになるよ」とみんなで励ましあつて頑張っています。逆上がりができるようになったお友達が増

皆つお兄さん、お姉さんに進級し、初めての活動にも笑顔で楽しく取り組んでいます。ふよう組のお友だちは自分で作ったお茶碗作りを順番に進めていくと「ぼくが先にやる」と順番で採めてしまふことがありました。しかし「ぼく、次にするよ」とお友だちに譲る姿も見られ、

成長を感じる場面もありました。「いつも使っている粘土？」や「ご飯たくさん食べるから大きい作る！」と、さまざまな会話を交えながら、真剣な表情を浮かべて作っています。自由遊びの時間になると、お道具箱から粘土を出し、作り方を思い出しながら、お茶碗を作っています。出来上がると「見て！」と笑顔で教えてくれます。

陶芸製作をしていると、他のお友だちへ作り方を教えてくれる子、そと見ている子など、和気あいあいの雰囲気の中で、楽しく取り組んでいます。世界に一つの大切な作品に仕上がるように、子ども達と一緒に丁寧に作れるように工夫し、心がけています。

抱っこをすると泣き止む子もいれば、おやつを見たり泣き止む子、戸外遊びに行くと泣き止む子とそれぞれ違います。私たち保育士も、毎日手探りで子どもたちの好きなものをみつけたり、意外なもので泣き止んでくれる事に驚いたりしています。

これから先、子どもたちは色々な経験をしながら、進んで、逃げて、立ち止まって成長していくことでしょ。そんな時は、ちゃんと話を聞いて、次の歩が踏み出せるお手伝いができたら嬉しいですね。

「私も頑張る」と刺激を受けています。感染症によりまだまだ思うようにできないことや子ども達にも我慢させてしまうこともあり、不安な日々が続いていますが、子ども園生活最後となるこの一年を様々な経験を通して、思いやりの気持ちを持ちお友達と協力しながら達成する充実感を味わえるように、子ども達が笑顔で過ごせるように、少しでも以前のように行事などができることを工夫しながら考えていきたいと思っています。



すみれ組のお友だちも、できあがりを楽しみにしています。自分で作った箸置きやお茶碗で、ランチをたくさん食べ、卒園まで大事に使っていきます。

風が春めいて、久しぶりに、赤ちゃんたちの泣き声が響く季節になりました。抱っこをすると泣き止む子もいれば、おやつを見たり泣き止む子、戸外遊びに行くと泣き止む子とそれぞれ違います。私たち保育士も、毎日手探りで子どもたちの好きなものをみつけたり、意外なもので泣き止んでくれる事に驚いたりしています。

うしで、話し合ったり、ごっこ遊びをしたりもします。そんな中で、私が一番好きな子どもたちの表情があります。それは、いたずらを思いついた時の表情です。この時の顔は、赤ちゃんも年長さんも、本当に良い顔をします。面白い時もあるけれど、危険な時もあるのだから、何をやるのか、しばらく見守ります。危なく注意されるけど、何度もやりたくなる、何人かの人数でやれば大丈夫！なはず。という子どもたちの発想には、日々驚かされます。

恵明キッズフヨウビレッジ

様々な体験を通して

えてくると、みんなが喜び「私も頑張る」と刺激を受けています。

成長を感じる場面もありました。

すみれ組のお友だちも、できあがりを楽しみにしています。

風が春めいて、久しぶりに、赤ちゃんたちの泣き声が響く季節になりました。

うしで、話し合ったり、ごっこ遊びをしたりもします。

子育て支援センター

もり宮さんの杜通信

2022. 4月号



暖かい日差しやさわやかな風に心も体も和んでくるようです。「春」って、何となくウキウキ気分になりますね。新型コロナウイルス感染症の心配が続いており、利用制限もありますが、今年度も楽しい活動を通して、子どもたちの成長を保護者の皆様と共に見守っていただけたいと思います。

* ちょこっとコラム ~ 春をいくつみつけられるかな ~ *

春になると、冬芽から花や葉の赤ちゃんが次々と顔をのぞかせます。たくさんのお花を見つめることができます。また、鳥たちも活発に動き出し、さえずりがあちらこちらに聞こえてきます。外は暖かく過ごしやすい季節ですので、春探しに出かけてみませんか。素敵な発見がありますよ！



● 三島市大宮町2丁目2-11 tel.055-991-0010

じゃじゃまる通信



2022. 4

子どもたちのかわいい笑顔に誘われ、さくらの花びらが舞い降りてきました。令和4年新年度じゃじゃまるもスタートしました。それぞれの季節を感じ、また、様々な素材を取り入れながら、楽しい活動を計画しています。皆様のご協力のもと、感染対策をしっかりし、安心して利用して頂ける場を設けていきたいと思います。ぜひ、遊びに来てください。

ちょこっとコラム

色とりどりの花が咲き乱れ、野鳥がさえずる季節になりました。あちらこちらに春を見つけ出すことができます。のんびりとお散歩に出かけると、色々な発見ができますよ！！

● 恵明キッズフヨウビレッジ内
三島市芙蓉台2-3-17 tel.055-987-7922

フリッパー通信

令和4年4月

春の日差しの中、上岩崎公園の桜も見ごろを迎え、新しい気持ちと共にフリッパーがスタートしました。今年度も沢山の地域の方々との出会いを楽しみに、親子のふれ合いの今月もソーシャルディスタンスを取りながら、親子で楽しみましょう。

* ちょこっとコラム ... 肌トラブル

4月になると寒さも緩み、日中外で遊んでいると汗ばも出てきます。アトピー性皮膚炎が出てしまう子もいます。かき壊すと、とびひに感染することもありますので、調節のしやすい衣服で過ごしましょう。

● 恵明キッズサクラビレッジ内
三島市文教町2-28-6 tel.055-943-6878

ぽこ通信

2022 4

うらかな春日和。園庭に咲く色とりどりのお花にちょうちょうがひらひらと舞っています。きれいな春色のプレゼントですね。今年度のぽこも、暖かいぬくもりの中にあるような優しい雰囲気大切に、たくさん笑顔に出会えるのを楽しみにしていきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願いします。

* すきな色でぬってね *



★ ちょこっとコラム ★ ~ チューリップの花 ~

園庭でチューリップがきれいな花を咲かせました。「あか、しろ、きいろ」とお友達と歌いながら楽しんでみましょう。花からひょうこりのお花さんが顔をのぞかすかもしれません。チューリップは品種が多数あり、その数500種以上と知られています。色や形も様々で鳥の羽根のようなひらひらしたものや、ばらの花のようなものもあり、目を惹かせてくれます。

● 恵明キッズコスモスビレッジ内
三島市谷田1629-38 tel.055-973-7778

ローズ通信

2022. 5

さわやかな風が気持ちの良い季節になりました。園庭では、芝生の緑とハナミズキのピンクが青い空に映えてとてもきれいです。支援センターでは、お花を使った製作を予定しています。ぜひ遊びに来て下さいね。

★ ちょこっとコラム ★ ~ いちご ~

いちごの美味しい季節ですね。いちごは、長時間水につけておくと、栄養素が流れ出てしまうので、食べる直前にヘタをつけた状態でサッと洗っていただくのが良いそうです。栄養満点いちごを食べて元気に過ごしましょう。

● 恵明キッズローズビレッジ内
駿東郡清水町堂庭89-16 tel.055-943-5519

恵明キッズ コスモス ビレッジ

二十周年の
春を迎えて

恵明コスモス保育園としてスタートしたコスモスビレッジは今年、20回目の春を迎えました。毎年たくさんのお花たちが入園、進級をお祝いしてくれる花壇やコスモスタンド、大型遊具や富士山が見える屋上のプール。広い芝生のコスモスフィールド等いろいろな場所や設備が少しずつ増え、99人定員のことも園に



なりました。現在は、主任保育士として大切なお子様をお預かりする立場になった私自身も、開園時は新米保育士でした。保護者の方から離れ、不安とさびしさから大声で泣いたんぼほ組の子どもたちが笑顔で過ごせるように「楽しいでいっばい」にしたいという思いのみで同じクラスの担当保育士と毎日を必死で過ごしました。初めての昼寝で、私のエプロン握って離さない小さな手や

歩いてお部屋に入ってくる事ができた恥ずかしそうな笑顔。残さず食べたお皿を得意げに見せる姿。そして玄関で保護者の方に抱きついて見るとびつきりの笑顔等。4月になると当時の記憶が鮮明に蘇ります。月日が流れ、立場が変わった今も、笑顔で過ごせるようにという気持ちに変わりはありません。そのために安心して過ごす事ができるよう担任や支援の職員と一緒に子どもたちに寄り添った保育を心掛けていきたいと思

地域の中で居場所作り

二十年前の春、恵明キッズコスモスビレッジが恵明コスモス保育園としてスタートしました。オープニングスタッフとしてコスモスで働くようになってから、ここまでの笑顔の子どもたちの子どもたちを送り出してきました。そして二〇二二年、今年も十八名の新入園児を迎え、元気な声が毎日響いています。今年度は、以上児のフリ



姿を迫るように新しいことができていく喜びを感じている子どもたちの様子が見られます。中でもコスモス組になって始まる富士山係の発表は、楽しみでもあり、とても緊張する場面。Hくんは何日も前から緊張を口にしていましたが、発表当日、お誕生日会という晴れの舞台で堂々と発表することができました。その後も「できた！僕できたよ！」と自信をしっかりとつけたその顔が私たちに感動と喜びをく

れ、成長を間近で感じられた瞬間でした。保育士となり二十年。我が子の出産・育児で中抜けする期間もありましたが、毎回戻ってくる度に、子どもの笑顔が見れること、子どもの成長に立ち会えることに大きなやりがいと幸せを感じます。また、子育て支援センターの担当も四年目を迎え、コロナ禍の中で外出を控えがちだったお友だちが「久しぶり〜！」と来てくれる今、親子で過ごす貴重なふれあい時間として心地よく過ごせる居場所作りをコスモスビレッジと共に行っていきます。佐々木いずみ(保育士)



これは何だろっ？今年も新しい一年がスタートしました。就職して以降、主に〇、一、二歳児の小さい子達を見てきた私ですが、今回組の担当になりました。初めての事にあたふたしている毎日ですが、子どもたちのキラキラした目に元気をもらっています。元氣一杯のゆり組さんはお外遊びが大好き。「今日はお外に行ける？」と毎日聞いてきます。お外に行く男の子は「こんなにダンゴ虫いたよ」「あっちに行くとどきどきするよ」とお外で追いかけて、女の子は「先生どうぞ」とお花をプレゼントしてくれます。ある日、小さな図鑑を持ってお外に行ってみる事にしました。そうする

と、今まではお花や虫を捕まえる事で満足していた子達が、本物と図鑑を見比べ「背中が黄色い線がついてるよ。メスカナ？」とダンゴ虫について草を食べるんだって。草も入れてあげよう」と、自分達で観察し、考えるようになってきました。そんな中、お昼寝前に見た「アリ」という絵本。その中に写真やアリの種類が載っている「アリ新聞」がありました。アリにもたくさんの種類がある事を知ると「面白い！」とお外で写真撮りたいね」と次々に興味が出てきて、みんなの頭の中はワクワクでいっぱい

まだまだ計画の段階ですが、子ども達の興味の種類を大きくしていきながら、実際に観察し、お花を摘んで、つづつどう違うのか、みんなで見ることができたらなど考えています。子ども達の興味関心を大切に、それを育んでいける様な保育をしていきたいと思

藤田 みなみ(保育士)

恵明コスモス児童センター



わたしたち、無事に卒業できたよ!

春休み、夕方、児童センターの玄関のほうから「おにーさん、おねーさん、いるー？」と誰かが呼んでいる声が聞こえてきました。「何かかと思、玄関に行ってみると、いたいたー！私たちが無事に卒業できたよー」の声とともに、そこにはたくさんのお花の卒業生がいました。何年かぶりに会う子もいてその大きくなった姿にびっくりしました。中学校を卒業したこととこれからの高校に行くことになったかの近況報告も兼ねて遊びに来たそう



みんなの成長にびっぴりし、また来てくれたことにも嬉しい気持ちでいっぱいになりました。後で保護者の方から「この子たちはみんなで節あることに定期的にコスモスに集まることを予定しているようですよ！」との情報もいただき、コスモスがみんなにとってそういう場所に位置付けられてきたことにもやりがいを感じています。4月になつてからは、「中学生になつたよー」という声も聞かれました。また、0歳の赤ちゃんの時から保育園でお預かりし、その後、小学生、中学生と児童クラブ、

高校生になつてもボランティアとしてコスモスとずっと関わりが続きたい学生や社会人になつた子たちの顔も見られます。今年度は保育園と児童センターと連携して恵明コスモスの丘20周年ということですが、この20年間で沢山の卒業生を送り出しました。その子たちが大きくなつても遊びに来てくれると、いつか、とてもうれしく喜ばしいことだと思

脇 雅秀(センター長)

恵明コスモスの丘
創立20周年

恵明コスモスの丘は、平成15年、静岡恵明学園50周年の時に保育園と児童センターを合築し、当時斬新な複合施設として創立されました。お母さん先生(前理事長杉村茂登子先生)によって「調和」、「平和」の花言葉を持つコスモスという名がつけられ、地域の錦田中学校の体育館をお借りして記念式典も行われました。それから20年、たくさんの地域の方、保護者の方、ボランティアの皆さんのご支援のもと、保育園と児童センターが協力して0歳から18歳までの連続した子ども達の健全育成に努めてまいりました。未だにコロナウイルス等感染症流行に不安がありますが、今後も児童の健全育成のためコスモスとして何が出来るか考え、法人内の他施設と連携していきたいと思

恵明キッズ サクラ ビレッジ

十周年記念
なかよしさくらまつり

上岩崎公園の満開の桜に見守られながら、サクラビレッジは十一回目の入園式・進級式を迎えました。

新型コロナウイルスの影響により、さくらまつりが中止になってしまいましたが、今年を行うことができました。入園式・進級式の日が近づいてくる「おまつりやるよね」「私は初めて」「何のお店



と、手にチケットを握りしめ「ひとつ下さい」と元氣よくお買い物をするお友だちや恥ずかしそうに保護者の方にくっつきお買い物をするお友だちの姿がありました。くじの景品で当たったおもちやで遊んだり、屋台の物を食べたりと、とても楽しんでる様子でした。お家に帰る時も「沢山食べたね」「楽しかったね」と言う声を多く聞くことができ、



式・進級式を行いました。お兄さん、お姉さんになりたくましく成長した子どもたち。お父さん、お母さんに抱かれ緊張した顔の新入園の子どもたち。笑い声、泣き声、大きな元氣な歌声の響く中、令和四年度がスタートしました。

組さんがつくし組さんの手をぎゅつと握りしめて歩いてくれました。桜の花びらが風で舞い落ちる中、全園児の元氣な笑い声、走り回る姿はとても微笑ましい光景です。みんなで笑って、泣いて、時には喧嘩もしながらも仲良く、すくすく健やかに成長できるよう、暖かく見守っていききたいと思えます。

た。私自身も、入社して三年目にして初めてのおまつりに不安もありました。が、どんなおまつりになるのかとても楽しみなところもありました。キッチンでは、前日から準備をし、当日はお店の品補充や片付けで、あまり外の雰囲気を感じることが出来ませんでした。当日は天候にも恵まれ、公園の桜の花も満開を迎え、子どもたちや保護者の皆様、ご近所の方がとても楽しそうにしている雰囲気もキッチンの中まで伝わってきました。

た。キッチンでの準備は朝から忙しく、恵明巻きや三島焼き、人形焼など普段とは違うものを作りました。初めて会う先生や作業にとまどいながらも、色々な先生方と一緒に準備する作業も楽しかったです。まだまだ心配することはありませんが、これから様々な行事の中で子どもたちと楽しく笑顔あふれる毎日を過ごしていきたいと思えます。

瀬戸山 花野(栄養士)

桜の花に包まれて

ポカポカ陽気に誘われ、上岩崎公園の桜の花も満開となりました。恵明キッズサクラビレッジも入園

初めてお父さんお母さんと離れ、不安杯の子どもたち。大粒の涙を流し、ぎゅつと先生にしがみついている新しいお友だちに「泣かないで」と優しく頭を撫でてくれる在園児。そつと玩具を「どうぞ」と渡してくれる優しいお友だち。みんな新しく入ったお友だちと早く一緒に遊びたい様子を思っています。

今年度はサクラビレッジの、なかよしさくらまつりを開催させることが出来ました。昨年までの三年間は新型コロナウイルスの蔓延とその防止の為、やむを得ず延期・中止が続きました。

今年度はサクラビレッジの、なかよしさくらまつりを開催させることが出来ました。昨年までの三年間は新型コロナウイルスの蔓延とその防止の為、やむを得ず延期・中止が続きました。

今年度はサクラビレッジの、なかよしさくらまつりを開催させることが出来ました。昨年までの三年間は新型コロナウイルスの蔓延とその防止の為、やむを得ず延期・中止が続きました。

瀬戸山 花野(栄養士)

恵明キッズ ローズ ビレッジ

小さな小さな
お兄さん

「人見知り心配です」と何人かの保護者からの声がありました。0歳児3名、1歳児10名を迎え16名でスタートしたつくし組さんはコロナ禍で産まれたお友だちです。外を歩けば皆マスクをしていて、そんな生活の中



で初めて園生活を始める我が子を心配される方が多いのだと思います。慣れ保育が始まり、登園の時間になると聞こえる泣き声。大好きなお母さんと離れ頑張ろうとするつくし組さんの声です。少しでも安心感が伝わる様、そつと抱きしめていると在園児の男の子が近づいてきました。泣いている子の顔をじつと見つめると、小さな手で頭を優しくなでてくれました。そして、近くにあるおもちやを持ってくるので、1歳の子どもの、そんなお兄さんの姿に驚かされました。新入園

「おはようございます」元氣な子どもたちの声と共に始まった四月。ローズビレッジは、開園十年目の春を迎えました。子どもたちは新しいクラスでの生活にも少しずつ慣れ、たくさん笑顔が園舎から溢れています。すみれ組さんは、初めて

行く活動の二つに興味を持ち、期待を膨らませながら積極的に取り組んでいます。一人では不安だった朝のお支度も「もう終わりたいよ」と嬉しそうに教えて自分で出来たという自信につながっているようです。

昨年、数年ぶりに復帰させて頂き、当時つくし組さんだったお友だちが立派なバラ組さんに成長して、時の流れの早さを感じている今日この頃です。今年度より子育て支援センター「ローズ」を担当させて頂くことになりました。私自身も現在三歳に

なる娘の育児奮闘中で、週末には地域の支援センターへ足を運んでいますが、まだまだ近くに友達もいなく、子どもと過ごす日々で孤独を感じていた中、勇気を出して初めて支援センターへ足を運んだことが思い出されます。先生方が優しく出迎えてくれて、子育ての悩みを聞いてくれて、張り詰めていた気持ちがホッと緩んでとても心が救われました。

今年度もリトミックやふれあい遊び、季節の製作など楽しいイベントも企画されています。地域の親子の笑顔が溢れる子育て支援センターを目指して精一杯努力していきたいと思えます。是非一度、遊びに来て下さい。

岩科 麻友(保育士)



番大きいお兄さんお姉さんになった事への自覚が増し、日々の生活の中で頼もしさを感じます。泣いている子がいると優しく声を掛けたり、困っていたら手を差し伸べられるバラ組さんの姿はとても素敵で、今後もしっかりとしていきたいと思えます。



岩科 麻友(保育士)

SDGs 持続可能な開発目標
Sustainable Development Goals の略

三島市民間保育園・こども園園長会主催で ポスターを作製しました。



21世紀に生きる君たちへ ~歴史小説家司馬遼太郎さんの文章より~

歴史とは何でしょう、聞かれる時、このように答えるようにしている。それは、大きな世界です。かつて存在した何億という人生がそこにつめこまれている世界なのです。この世にたくさん素晴らしい友人がいる。そして、歴史の中にもいる。そこにはこの世では求めがたいほどに素晴らしい人達がいる、私の日常をはげましたり、なぐさめたりしてくれているのである。ただ、その私は未来を見たいが、残念ながら未来の街角にはもういない、予測もできないが、私には言えることがある。それは、歴史から学んだ人間の生き方の基本的なこともである。昔も今も、また未来においても変わらないことがある。そこに空気と水、それに土などという自然があって人間や他の動植物さらには微生物にいたるまでがそれに依存しつつ生きていくということである。古代、中世でも自然こそ神々であるとした。歴史の中の人々は自然をおそれ、その力をあがめ、自分たちの上にあるものとして身をつつしんできた。しかし、この態度は近代や現代に入って少しゆらいだ。人間こそいばんえらい存在だ、という考えが頭をもたげた。しかし、同時に人間は決して愚かではない。思い上がるということとは逆のこともあわせ考えた。私ども人間とは自然の一部にすぎないというすなおな考えである。近頃、君たちはこの良き思想を取り戻しつつあるように思われる。この自然へのすなおな態度こそ21世紀への希望であり、君たちへの期待でもある。~続~

